

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192005999		
法人名	健康倶楽部株式会社		
事業所名	あすなろの家 (1F あやめ)		
所在地	小樽市幸2丁目22番3号		
自己評価作成日	令和 4 年11月10日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 28 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosoCd=0192005999-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑あふれる景観良い高台に位置しています。庭先の梅の木・サクラノポの木にウグイス等がやってきて鳥達の鳴き声で季節を感じる事ができます。暖かい日は外の東屋にて昼食会を行ったり、中庭の畑で採れた野菜が食卓に並び新鮮な野菜を味わって頂いています。時には隣接しているグループホームの方との交流もあり、気分転換をして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は高台の住宅街に位置し、鉄筋コンクリート造りの地上2階、地下1階の眺望の良い丘の上に建っている2ユニットのグループホームである。1階と2階がグループホーム、地下1階は小規模多機能事業所となっている。隣接して同法人が運営するグループホーム「あすなろ」があり、広い敷地には東屋もあって、同場所で感染症対策を施して、昼食時に焼肉パーティーやスイカ割りなどを行い、休息の場所としている。事業所内の共用空間の居間は南向きで明るく、空調設備もあり、窓からは多くの山々や市街地を望むことができ、季節の移り変わりなどを満喫することができる。災害時には当事業所の敷地が地域避難場所になっており、地域にも貢献するなど、質の高いサービス支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内の掲示板に貼り、いつでも確認が出来るようにしています。毎月発行している“あすなろ便り”にも提示しています。	地域密着型の事業所として法人の理念を玄関や各ユニットに掲示し、職員全員で朝礼時に唱和して、支援に活かすよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、町内行事への参加は出来ませんでしたが、資源回収への参加は行っています。	コロナ禍のため、町内会事業やボランティア訪問行事などの交流は自粛しているが、町内会の資源回収には参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する研修を行っています。支援方法について等の話し合いを行い活用しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により会議の開催は内部の委員で行い、資料と議事録を委員や包括に送付。意見等ある場合は電話等でお聞きしています。	運営推進会議は年6回開催しているが、コロナ禍により3事業所合同での書面会議を開催し、運営状況等の報告を議事録にまとめ、各委員、利用者家族等に送付して意見や助言を得て、サービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、担当の課に連絡し、相談・報告を行っています。	市担当者とは事業所の実情やケアサービスの取り組みを電話で報告しながら、協力関係を築き、情報交換を行っている。近年はコロナ感染症対策についての相談を保健所と連携し、ケアの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準における具体的な行動を正しく理解し、施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束委員会と虐待防止委員会があり、会議の結果を月1回の内部研修で話し合い、身体拘束の弊害や具体的な禁止行為、不適切な言動について正しく理解するよう心がけている。夜間は安全のため各フロア玄関の施錠を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待防止について学び、ディスカッションを行い、日々のケアに活かしています。また法人内で身体拘束委員会を設置し、虐待を見逃す事がない様努めています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修開催の際は参加をし学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約後も連絡を頂き、不安や疑問点の相談受けを行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話で要望等を聞き入れています。また来訪記録に記載し、職員間で共有・把握出来るようにしています。	意見箱は玄関入口に設置している。法人から年1回、利用者家族にアンケート調査を行い、意見、要望、意向などを聞いて支援の向上に努めている。感染症対策を行ったうえで、利用者と利用者家族とのドア越しでの面会の際にも利用者家族から意見、意向を聞いて事業所運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っているフロー会議で職員の意見・要望を聞き、必要に応じ上司に相談、指示を受けています。	管理者は日常勤務の中で職員との会話を重視している。年2回の個人面談を実施し、職員からの要望や意見について出しやすい環境を心がけている。母体法人の意向で、職員の資格取得や研修会への参加に取り組むなど、事業所運営の向上に努めている。職員は1年間の目標を各自で設定し、その結果について管理者に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートにて個々の努力や実績を把握している。また、年1回ストレスチェックを実施すると共に、職員面談で職員の希望を十分に聞き入れ各自が向上心を持って働ける職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内研修の実施及びグループ内研修へ参加してもらい職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームと会議等で情報共有を行うと共に外部研修への参加等でサービスの向上に努めている。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとり、安心して話せるような雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解し、不安を解消することで信頼関係が作られるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の意向を共有し、ご本人に必要な支援を見極めて提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に、出来る事はして頂き、その人に合った手伝い等をして頂いています。出来ない部分は、さりげなく支援し良好な関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子をお伝えして、家族にも協力して頂きながら共に支援していけるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、面会は玄関のドア越しにて行い電話を繋げお話しして頂いています。また家族の希望にて毎週電話を下さる方もいらっしゃいます。	現在はコロナ禍で、外出支援を自粛しているが、今後は感染症予防を心がけ、ドライブでの花見や紅葉を楽しむ予定である。面会を希望する利用者家族には感染症対策の上、ドア越しでの面会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独感を感じないをように、職員が入居者同士の交流が図れるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状態の変化などの確認を行っています。また、家族からも連絡を頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、コミュニケーションをとり、その会話から入居者の思いを聞き入れ職員間で共有しています。	利用者との会話や日々のふれあいの中から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。2ヶ月に一度、音楽療法の講師を招き、懐かしい昭和歌謡を職員と一緒に歌うなど心通う支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フロア内に入居者情報をファイルし、すぐに確認できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り時や、日々の日常生活で、常に職員間で声を掛け合い現状を把握出来る様になっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見や要望を伺い、少しでも要望に近い支援が出来る様努めています。	短期3ヶ月または6ヶ月、長期1年で介護計画を見直し、利用者や利用者家族の意向を取り入れるよう支援している。日々の関わり合いやケア記録を基に職員で話し合い、介護計画を作成し、利用者家族の承認を得ている。また利用者の状況に応じて随時、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間で情報を共有、主治医・看護師の意見も聞き本人に合った介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の日々の様子を記録し、次のプランに活かす様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により行事は中止となっていますが、例年はお祭りなどに参加させて頂いています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の異変等があった際、新たな病院を受診する時は、ホーム看護師と相談後、家族様に連絡、状態報告したうえで決めています。また受診結果は必ず家族に報告をしています。	常勤看護師が利用者の健康状態を確認し、希望する主治医の受診継続に繋げている。受診後の記録は同行した職員や利用者家族からの報告を基に作成し、常に利用者の健康状態を把握している。協力医とは24時間体制で緊急時での対応もできる支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきに関し、都度ホーム看護師に報告し指示を受け対応しています。また受診・往診時、主治医に身体状況を詳しく伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	数週間ごとに入院先に連絡を入れ、状態確認を行い、早期に退院が出来る様に情報交換を行っています。また、主治医からの状態説明にも参加させて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談時、週末期の意向を家族と話し合い、ホームで行える事を説明し納得を得ています。主治医にもその意向を伝え、協力を得ています。	入居時に利用者及び利用者家族に重度化した場合や終末期のあり方について説明し、説明内容について書面で確認を得る。重度化した場合は早い段階から利用者、利用者家族及び主治医とで話し合いを行い、再度、意思確認を重ね、希望に沿えるよう支援している。運営方針を職員間で共有してターミナルケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応出来るように、見合った研修に参加したり、応急処置のマニュアルをファイリングしフロア内に置いています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練（避難誘導）を年2回行っています。また夜間を想定した訓練も行っています。	昼夜の災害を想定した避難訓練を年2回実施している。隣接する町内会館は地域の避難場所となっている。当事業所の広い敷地は町内の一時避難場所になっている。災害時の備蓄品も確保している。	隣接する事業所とは協力体制を取っており、定期的に避難訓練を行っている。今後は感染症対策において、利用者、職員が感染したことを想定しての対処マニュアルを作成し、事業所合同による職員研修を行うなど、予防対策に力を入れることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の人格・自尊心を配慮し、本人に聞こえる声の大きさ・距離を心掛けています。	職員はウェブ会議研修を行い、常に学習を行っている。日々のケアでは言葉使いに気を付けて、特にトイレ誘導の際は耳元で声掛けをするなど、利用者の尊厳やプライバシーを守ることを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を発信しやすい状況に努め、本人が決定する事が出来る様、個々の関わりにより思いをくみ取るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に添えるよう一人一人のペースに合った生活リズムを優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個々の好みに合わせるよう、気候・季節に合った服装へと配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力量に合わせ出来る事、テーブル拭き・食器拭き・野菜の下処理・盛り付けなどお願ひしています。	献立や食材の購入は業者に発注し、調理は職員が行っている。利用者は能力に応じて職員と一緒に下ごしらえから後片付けまでを行っている。おはぎ作りなどにも挑戦し、食事を楽しんでいる。1階、2階合同でのハロウィンパーティーを開催し、楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事は記録に残し、水分量もチェック表に記入して少ない時は、好みの物を提供したり、過度に取り過ぎないように個々の状態を把握して調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。出来る所は見守りし自己にて行って頂き、十分でない所は介助しています。夕食後、義歯の方は義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレでの排泄を促し、失敗を減らしたり自立に向けた支援を行っています。	利用者の排泄チェック表を活用してそれぞれのタイミングに合わせて声掛け誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を行えるよう支援している。誘導時には自尊心を損ねないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、1日の水分量が少なくならないよう努めています。ホームの看護師に相談し、下剤の調整もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています、その中で本人の希望に添えるよう対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、居室やソファにて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の内容が確認・把握出来る様に、フロアー内に薬の説明書を保管、薬セット後は数回チェックし、服用前も声出し確認。飲み込みむまで確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや、たたみなど毎日のやりがいになっている作業を続けて頂いています。職員とコミュニケーションをとりながら喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出は控えて頂いていますが、天気の良い日は外の東屋にて昼食会など行っています。	コロナ禍で、外出支援は自粛しているが、前庭や東屋で食事会を行ったり、庭での散歩や日光浴、庭にさく花や木々を眺めたりして、外気や季節を感じながら、日々の暮らしを楽しむよう支援している。	

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に合わせ、家族と相談のうえ金銭を所持している方もいらっしゃいます。必要物品や本人の希望の物は代行にて購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された際は、希望に沿っています。家族が希望し毎週電話をして下さる方がおり取り次いでいます。手紙を書かれた際は、代行にて送付しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じ、光の調整・室温・湿度の調整、また定期的な換気を行っています。掲示板には春夏秋冬の装飾をし季節を感じて頂けるように努めています。テレビの音量にも配慮しています。	食堂とリビングが一体となった広い共用空間は温度、湿度が適正に管理されて過ごしやすくなっている。コロナ対策として一定の時間に換気を行い、消毒にも心がけている。利用者と職員が一緒に作成した飾り付けや行事の写真などが飾られ、季節感あふれる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、自由に座りテレビや新聞等を読んだり、状況に応じ座る場所に誘導して過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具等を持ってきて頂き、早めに環境に慣れ、居心地良く落ち着いて過ごす事が出来るよう努めています。	使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、思い出の品や写真などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。清潔で安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事・わかる事を把握し、その方に合った環境整備に努めています。少しでも自立した生活が送れるよう支援しています。		